

安全・安心で良質な農作物を作るために土づくりは欠かせない。土づくりの基本は、養分バランスを整え、有機物を混ぜ合わせて土を軟らかくし、適量の肥料を与えることである。

未来を開く

青森産技センター報告

—23—

このため、土に不足する成分は石灰などの土づくり肥料（作物の栽培に適した土に改良する肥料）で補い、養分バランスを適正範囲に改善す

肥料の適量

土壌データで簡単計算

る。家畜のふんから作られる堆肥は土を軟らかくし地力を高める効果があるが、養分が

多く含まれている場合があり、その分の化学肥料（作物が必要とする栄養分を与えるための肥料）を減らす必要がある。

県内では年間約1万件の土壌分析が行われている。一方で、土と堆肥の養分量に応じた化学肥料の適正量を知るためには、複雑な計算が必要である。そこで、農林総合研究所は、インターネット技術に詳しい工業総合研究所と連携し、ホームページ上で簡単な操作により、土づくり肥料や化学肥料の適正量を計算することができるシステム「施肥なび」を開発した。

ネット利用、経費削減も

「施肥なび」では、土壌分析データ入力や項目選択で①土の養分バランスを整えるの学肥料の適正量③これらにかかる肥料費を簡単に計算できる。土づくり肥料の量②に必要なたまご肥料の量②土と堆肥の養分量に応じた化学肥料の適正量③これらにかかる肥料費を簡単に計算できる。



「施肥なび」の画面

「施肥なび」は、パソコンやタブレット、スマートフォンを使って誰でも利用することができる。土壌分析を行う必要はあるが、圃場の状態に合わせた適正な土づくり肥料や化学肥料の量を手軽に知ることができるようになり、県が進める健康な土づくりに取り組みやすくなる。土や堆肥の養分を有効利用して無駄な化学肥料を削減することで、コスト低減も期待される。

今年7月から利用開始し、現在、県内でおよそ160人が使っており、「肥料費を大幅に減らすことができ良かった」などの声が寄せられている。今後利用者を増やすようPRに力を入れていきたい。

（農林総合研究所生産環境部 谷川法聖）

東奥日報 平成28年9月16日掲載

この記事は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。